



JACET通信

大学英語教育学会

July 2003

The Japan Association of College English Teachers

No. 139

巻頭言

英語教育界を揺るがすもの

東京国際大教授・早稲田大名誉教授

田辺洋二

文部科学省の「戦略構想」(02/07/14)に対する JACET からの提案書を文部科学省に提出したのは昨年の 12 月である。その後、JACET は、今後 5 年にわたる中高英語教員の研修のため、会員を軸に全国の英語指導者の協力要請に努力した。JACET は研究者集団としての良心から、文部科学省の計画を丸飲みすることなく、検討を加え、その上で生徒・学生のために最善の努力を行うべく提案を行った。この点に関して、会員の皆さんの高い見識と理解あるご協力に感謝する次第である。この「戦略構想」は『文科省フォーラム』(03/03/17)の後、「行動計画」(03/05/31)としていよいよ運用段階に移った。近年まれにみる内容であり、言うなれば英語教育界を揺るがすに足る計画である。

先日、伝統ある日本英文学会の第 75 回大会(03/5/25)で「このままでいいのか日本英文学会」という「特別シンポジウム」が開催され、高橋和久同会会長が司会者となり、国重純二前日本アメリカ文学会会長、中島平三日本英語学会会長と共に、JACET 会長の小生も招かれた。高橋会長は、このシンポジウムが計画されるこ

と自体、同会としては異例であるとの認識を示したが、事程左様に、事態は急を告げている。聴衆は独自の専門と教育の「二枚看板」を背負う教師の責任(国重氏)と、英語力の評価基準設定の困難さ及び英語関連学会の結束の必要性(中島氏)に強い関心を示した。しかし、他方、「行動計画」に対する批判や日本人のコミュニケーション能力幻想説も飛び出し、それに賛成する人々もあった。私自身は、自己の専門を楽しむ活動と学習者を育てる教育の活動とは別であることを強調した。いずれにせよ、この日本英文学会の近年まれな企画内容も、日本の英語教育界を揺るがしかねない。

このシンポジウムに参加した学会に共通する傾向は、学会員の減少傾向である。日本英語学会は多少の増加をみたが、現実には厳しいという。減少の原因にテーマ別による小規模学会・研究会への関心が問われていた。JACET にも同じことが言えるのかもしれない。たとえば、支部別の研究グループによる活動はテーマ別に孤立する可能性がある。この傾向はその分野の研究上、その貢献度を高く評価すべきであると同時に、

日本の教育に関わる学会活動として、他の活動と連携し、教育活動に生かされねばならぬことだ。JACET 全体としての活動があってこそ、各グループの活動が日本の英語教育に生かされるからである。

全国的に展開する活動の一つと言えば、紀要による活動がある。紀要の活動は毎年の全国大会の活動と同じく、全国的に展開されることが大切だ。JACET *Bulletin* は年々薄くなっている。この傾向をくい止めるには、会員の紀要応募を容易にすると同時に、レベルを維持するために、研究を奨励するような機構を作る必要があり、しかも、全国の支部からの強力なサポートを必要とする。大学院を担当したり、研究会活動をしたりする教員には、ぜひ若い研究者を JACET *Bulletin* に応募させていただきたい。そして JACET で力をつけてさしあげたい。この若い力が今後の日本の英語教育を育てる原動力になることは疑いないからである。

21 世紀に入り、英語教育界を揺るがす動きが次々に出てきているように見える昨今だが、JACET はすでに予測していた。1991 年 4 月の大学設置基準の大綱化や大学審議会の高等教育カリキュラム改訂への提言などの発表時に、JACET は非常に強い危機感を持った。それが昨年 9 月の報告書『わが国の外国語・英語教育に関する実態の総合的研究 —大学の学部・学科編—』並びに、これから出版される報告書『わが国の外国語・英語教育に関する実態の総合的研究 —大学の外国語・英語教員個人編—』の研究を導いたのだ。この報告書に日本の英語教育の実態を読みとり、英語教育界を揺るがすものに対処し、全国一致協力して当って、さらに実り多い教育の状況を作りだすように努力しなければならない。

事務局より

代表幹事 中野 美知子

2003 年度 4 月より、合同会議が早稲田大学・教育学部で開催されることになった。また、月例講演会も合同委員会の後に開催されるので、合同会議への出席者が 2 倍になっている。日本学術会議への協力事業について、外国語教育に関係している 4 学会との調整を行い、必要書類を送付した。JACET 事務所の荒川さん、保坂さん、池尻さん、沖元さんも月に一回は早稲田のほうへ来てくれる事になった。

支部便り

<北海道支部>

1. JACET 北海道支部第 18 回大会

日時：7 月 12 日(土) 12:30 - 17:40

場所：藤女子大

総会：前年度行事活動及び会計報告並びに監査報告。本年度行事予定及び予算の審議。支部役員の新任及び退任について承認。

研究発表 1：「明示的知識とコミュニケーション能力：文法指導の意義と位置づけに関する提案」（浦野 研・北海学園大）

研究発表 2：「『JACET8000』の概要と今後の活用」（JACET 北海道支部 CALL 研究会）

講演：「日本の言語教育政策を問い直す」（大谷 泰照・大阪大、滋賀県立大名誉教授）

シンポジウム：「小学校から大学までの英語教育—異文化理解をどう推進するか」（司会：横山吉樹・北海道教育大岩見沢校、講師：末原久史・札幌日新小、神谷信廣・北海道教育大付属札幌中、黒岩萌実・北星女子高、伊藤明美・藤女子大、御手洗昭治・札幌大）

2. 研究会の開催

a) 2002 年度第 3 回研究会

日時：2 月 1 日(土)13:00 - 15:30

場所：藤女子大

ワークショップ：「論文の書き方」

講師：早坂慶子(北星学園大)，河合 靖(北海道大)

文法，句読法，引用書式など APA スタイルの基本的特徴について第 5 版のマニュアルをもとに解説と質疑応答が行われた。

b) 2003 年度第 1 回研究会

日時：5 月 18 日(土)13:00 - 13:45

場所：藤女子大

講演：「小学校英語のミニマム・エッセンシャルズ」

講師：秋山敏晴(北海道工業大)，中村香恵子(北海道工業大)，佐々木智之(北海道工業大)，三浦寛子(北海道工業大)

小・中英語教育の連携の視点から小学校英語教育で扱ってほしい学習項目についての解説と教材の紹介が行なわれた。

3. 運営委員会の開催

a) 2002 年度第 3 回運営委員会

日時：2 月 1 日(土)16:00 - 17:30

場所：藤女子大

ニューズレターについての報告があり，ついで 2002 年度行事・会計(中間報告)ならびに 2003 年度行事・活動および支部大会について審議された。

b) 2003 年度第 1 回運営委員会

日時：5 月 18 日(土)14:00 - 15:00

場所：藤女子大

全国理事会参加報告があり，ついで予算・決算，支部大会ならびに総会の議題について審議が行なわれた。

4. ニューズレターの発行

JACET 北海道支部ニューズレター第 16 号が 3 月 31 日付けで発行された。

(河合 靖・北海道大)

< 東北支部 >

第 42 回全国大会第 2 回実行委員会

日時：6 月 7 日(土)9:30-12:00 (9:30-10:30 は会場視察)

場所：東北学院大

報告：全国大会運営委員会報告(芝垣茂運営委員長)、特別セミナー報告(幸野稔大会委員長)、会場視察報告を含む準備状況報告ほか(村野井仁実行委員長)

議題：全国大会実行委員会主催特別セミナーのプログラムと収支予算書の件、視聴覚機器借用の件

2003 年度第 1 回役員会

日時：6 月 7 日(土)13:00-14:00

場所：東北学院大

報告：全国理事会報告、将来構想委員会報告、全国大会準備状況ほか

議題：東北支部紀要の発行について(支部紀要を発行することを承認。1 2 月の役員会に原案を提示できるよう事務局が中心となって準備を進める)

6 月例会講演会

日時：6 月 7 日(土)16:00-17:45

場所：東北学院大

講師：大津由紀雄(慶應義塾大)

演題：「小学校英語教育再論－批判にも応えて」東北英語教育学会宮城支部、日本英語音声学会東北支部との共催で開催した。小中学校の現職教員も含め、130 名という東北支部では記録的

な数の参加者があった。講演では、小学校での英語教育を特に英語教育関係者がもっと真剣に考えなければならないことが明確に示された。考えるためのポイントがわかりやすく提示され、小学校英語教育の在り方についてさまざまなことを考えさせられる意義深い講演であった。質疑応答でも、多くの質問が出され、予定時間を延長して終了した。

(佐々木雅子・秋田大学)

<関西支部>

2003年度第1回研究企画委員会

日時：2003年6月7日 (土)

場所：平安女学院大学 びわ湖守山キャンパス
(講義棟2階会議室)

- 議題：1. 研究企画委員長選出について
2. 2003年度秋季大会について
3. その他

関西支部春季大会

日時：2003年6月7日

場所：平安女学院大学 びわ湖守山キャンパス

a) フォーラム：「英語力プロジェクト：英語教員、大学生、大学院生、企業人が備えるべき英語力とは」 コーディネーター：相川真佐夫(和歌山信愛女子短期大)、パネリスト：竹内理(関西大)【英語教員指標部会】、石川保茂(京都外大)【大学生指標部会】、藤林富郎(金蘭短期大)【大学院生指標部会】、吉田信介(立命大)【企業人指標部会】

b) 研究発表：「英語初期学習者に対する繫辞 be の潜在のおよび顕在的指導の効果について」戸出朋子(大阪市立大正東中学校)

c) 実践報告：“A study of partitionment of one lesson: how to change atmosphere and how to attract attention in class” Alex M. Hayashi

(常磐会学園大)

d) 研究発表：「ESPにおけるニーズ分析と大学英語教育 ―ホテル業界の英語教育をケーススタディとして―」岩井千春(大阪大学大学院)

e) ワークショップ：「第二言語処理研究の方法とその教室への応用」コーディネーター：吉田信介(立命大)、「語彙処理研究の方法」門田修平(関西学院大)、「文処理研究の方法」横川博一(京都外国語大)、「基礎研究をいかにしてCALLに活用するか」吉田晴世(大阪教育大)、「文字提示を伴うシャドーイングの方法」倉本充子(広島国際大)

f) シンポジウム：「企業の求める英語力」コーディネーター：松浦勉(大阪青山短期大)、パネリスト：吉津弘一((株)電通)、瀬戸康弘(ダイキン工業(株))、青木幹生(元(株)JTB)

3. 今後の予定

a) 2003年度第1回運営委員会

日時：2003年7月5日(土曜日) 13時30分から15時30分

場所：立命館大学衣笠キャンパス アカデメイヤ立命21 2階K203号室

b) 2003年度第一回談話会

日時：2003年7月5日(土) 16時～17時30分

場所：立命館大学衣笠キャンパス アカデメイヤ立命21 1階中野記念ホール

講師：朝尾幸次郎氏(立命大)

演題：「インターネット上の実践から学ぶ：社会・文化的視点から」

c) 第2回研究企画委員会

日時：2003年8月3日(日) 14時から

場所：キャンパスプラザ京都 5階第1演習室

(東眞須美・神戸芸術工科大学、
時岡ゆかり・大阪産業大学)

<九州沖縄支部>

2003年度の本支部活動は、4月20日(日)の春季支部総会と学術講演会でスタートした。総会後、Peter Trudgill 博士(フライブルグ大学教授)をお迎えして、来日記念講演、“World Englishes: convergence or divergence?”がおこなわれた。なお、この講演会は西南学院大で、JACET九州沖縄支部とLET九州沖縄支部の共催であった。

近年話題となっている英語のオンライン・ラーニングや韓国の英語教育事情に関する講演会が、7月に予定されている。講師として招くのは、Kyutae Jung 博士(Hannam Univ.)と Sujung Min 博士(Kongju National Univ.)。両氏は、情報工学分野でも先端を行くイリノイ州立大アーバナ・シャンペーン校で、World Englishes の世界的な権威の Braj Kachru 教授と Yamuna Kachru 教授のもとで、1998年に学位を取得した韓国の先進気鋭の言語学者である。

以下は、本支部が「英語とコンピュータ」「英語授業」両研究会と共催でおこなう講演会の概略(予定)である。

日時: 7月13日(日) 19:00-21:00

場所: 長崎ブリックホール

Jung 博士 演題: “Negotiation Process of Meaning between Korean and Japanese Students: Observation through Online Discussions”

Min 博士 演題: “The Diachronic Change in English Education in Korea”

第18回目を迎える支部研究大会を、10月

11日(土)、大分県立芸術文化短期大で開催予定である。大会の統一テーマは、「英語教育改革の理想と現実:動き出した戦略構想を検討する」である。

当日は、大会テーマと同じタイトルの支部大会シンポジウムや個人研究発表などが予定されている。シンポジウムのコーディネーターとパネリストは以下の通りである。

コーディネーター 木下正義氏(福岡国際大)
パネリスト(順不同)

大橋克洋氏(アジア太平洋大)

平野利治氏(富士通大分ソフトウェアラボラトリー事業推進部課長)

川尻徳氏(福岡市立舞鶴中学校校長、福岡県中学英語研究会会長)

今泉柔剛氏(福岡県教育庁高校教育課課長、前文部科学省国際教育課課長補佐)

このシンポジウムでは、文部科学省の提唱する英語教育改革の戦略構想について、多彩な視点から議論が展開されるものと運営委員会では期待している。

本支部を基盤とするESP研究会の第3回研究集会在、「ESP入門・再入門」というテーマで5月に開催された。詳細については、次URLを参照。

<http://www.let.kumamoto-u.ac.jp/yasunami/JACET-KyushuOkinawa-ESP/>

また、本支部の詳細な活動状況については、次のURLを参照。

<http://www.n-junshin.ac.jp/jacet/>

(上村俊彦・県立長崎シーボルト大)

月例会報告

「早稲田大学の海外協定校 38 大学との遠隔授業について」 中野美知子・早稲田大学

この発表では、早稲田大学で 1999 年度より開始している学部生のための異文化交流と専門教育のための遠隔授業について報告した。異文化交流では、テキストチャット、音声チャットをさせ、対話の内容をホームページに書き込ませており、ホームページの書き込みについて教師が指導する。また、学生のなかには英語力が不足しているものもいるので、1998 年からオンライン英語教育を開始し、2001 年度からは対面の英語チュートリアルが開始されている。

異文化交流には学生は 3500 名ほど参加しており、英語チュートリアルには約 5000 名が参加している。最近では異文化交流にはテレビ会議システムを利用して遠隔の交流を毎週行っているクラスもある。また、日本文化や社会の紹介にはリアル・オーディオで作品を作り、学生が自主的に交流の内容をきめるようになっている。

遠隔授業は RELC, エジンバラ大学、ハワイ大学、コロラド大学、北京大學、タマサート大学、シンガポール国立大学、高麗大学が協力してくれた。遠隔授業はテレビ会議システムを利用する場合とオンデマンド、BBS を併用する場合がある。こうした授業を多く開講しているので、セキュリティとネットワーク体制の維持に努力が必要になっている。

「モンリオールにおけるアロフォンのトライリンガリズムー若者の言語使用を中心にー」

時田 朋子

モンリオール大学大学院・青山学院高等部
現在、マルチリンガリズムは世界的に展開され、それに呼応して第三言語教育が普及してきている。そこで本研究は、その事例として、カナダのモンリオールに住むアロフォン（公用

語である英語とフランス語以外の言語を母語とする、主に移民一世・二世）を取り上げた。彼らの、母語と英語、フランス語からなるトライリンガリズムの比率（1996 年の国勢調査では 44.0%）が他の地域に比べて、高いからである。

先行研究では、トライリンガルの定義と、言語と社会の関係について扱った。トライリンガルとは三言語の能力を持つ者である。しかし言語能力は社会的・個人的環境により変化するため、各言語能力は同レベルではなく、また一つの言語における「話す」、「理解する」、「書く」、「読む」能力のレベルも異なる。多言語環境においては、ある言語集団ととるコンタクトの頻度と質が、その言語に対する個人の態度を反映し、また統合性や動機づけを決定する。すなわち個人の言語使用は、社会を描き出すことにつながる。そこで本研究は、モンリオールの英語系学校に通う 10 代後半のアロフォンを対象に、その言語使用を調査した。調査項目は、家族、友人および公共の場などコミュニケーションの相手に従った使用言語、文化的活動における使用言語、そして現在および将来の教育における教授言語と仕事で使いたい言語、最後に 10 年後の住居である。量的データのため 99 人にアンケートを実施し、その後質的データのために 7 人にインタビューを行った。

その結果、以下のことが明らかになった。①英語は頻繁に使用されるが、彼らはカナダ・アメリカ合衆国および国際的な言語としてその重要性を認知している。②フランス語はケベック州唯一の公用語であり、生活のために使用する。③遺産言語は特に家族と使用され、彼らのアイデンティティと結びつく。これより、彼らが各言語に対して異なる態度をもっていること、自らのマルチリンガリズムを利用し、相手や活動に応じて言語を使い分けていること、また地域

社会のみではなく国際社会にも強く影響されていることがわかった。

広報通信委員会より
委員長 中鉢恵一

昨年度より JACET 通信の一部を HP 化しております。会員の皆様にはご不便をおかけしていることもあるかと存じますが、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。尚、本年度の JACET 通信の発行予定は以下の通りです。

7 月号（日本語） -- 印刷
10 月号（日本語） -- HP
12 月号（英語） -- HP
3 月号（英語） -- 印刷

編集後記

学期末の忙しい折に原稿を送っていただきありがとうございました。おかげさまで、7月号ができあがりました。

中鉢恵一・中里喜彦

Main Articles in This Issue

Foreword(Yoji Tanabe) -----1
Report from JACET Office -----2
Chapter News -----2
Monthly Reports -----6
Information -----7

2003年7月30日発行

発行者 大学英語学会 (JACET)

代表者 田辺 洋二

発行所 〒162-0831 東京都新宿区横寺町 55

電話(03) 3268-9686 FAX(03) 3268-9695

<http://www.jacet.org/>

印刷所 〒228-0021 座間市緑ヶ丘 3-46-12

有限会社 タナカ企画

電話 (046) 251-5775
